

西サハラ地域の紛争

社会A班 梅崎智光 金澤万桜奈 松村海斗 玉井梨菜

1. はじめに

西サハラ地域は、世界地図では他の地域のように色が塗られておらず、真っ白です。私たちは何故このように表記されているのか気になったため、この地域を選びました。

西サハラの紛争は、世界に数多く存在する未解決問題のうちのひとつです。この問題は何故起きたか、解決策としてどのような案があるか、調べ、考えてみました。

2. 研究の進め方

まず西サハラ地域の歴史や周辺国との関係、現在の状況について調べました。

その後、他の紛争についても発生時期、関係国数、資源対立など全22項目について調べ一覧表を作りました。

それを用いて(※)3.3の戦争や紛争に関するレーダーチャートを作成しました。これらのうち、西サハラ紛争と型が似ているタミル人分離独立問題を選び、参考例として活用できるか調べてみました。



西サハラの位置

3. 西サハラの歴史と現状

西サハラは長い間スペインに植民地として占領されてきましたが、1960年代にモロッコとモーリタニアが「西サハラは自分達の領土である。」と主張し介入してきました。その後、スペインとモロッコ・モーリタニアの間にマドリッド協定が結ばれ、スペインは西サハラをモロッコ・モーリタニアに渡しました。これに反発した先住民がポリサリオ戦線として立ち上がり、ゲリラ戦を展開しました。激しいゲリラ戦の結果、モーリタニアは西サハラを諦めましたが、ポリサリオ戦線とモロッコの争いは今も続いています。

この地域は化学肥料のもととなるリン酸塩や海産物などの資源が豊富で、紛争の一因となっています。

現在は先住民のポリサリオ戦線がサハラ・アラブ民主共和国の領有を主張していますが「砂の壁」と呼ばれる砂でできた境界線を境に西の約70%をモロッコが東の約30%をポリサリオ戦線が治めており、モロッコが実質的に西サハラを支配しています。

独立するか否かを決定する住民投票が国際連合西サハラ住民投票ミッション(MINURUSO)によって行われようとしていますが、有権者を確定することが出来ないため、未だに実施されていません。

4. 私たちが考えた解決案

(1) 領土の分け方を変更する

現在、ほとんどの鉱産資源や水産資源はモロッコが支配する西側にあります。そこで領土の分け方を東西から南北に変更することで、資源が平等に分配されるようになると思います。

(2) モロッコ側が不利益を受けるようにする

諸外国が協力してモロッコからの輸入をストップし、モロッコが貿易において、不利益になるようにします。そうすることで、モロッコが領土を持つ意味が無くなり領土を手放すだろうと考えます。

(3) 国際的な意見を求める

モロッコとモーリタニアの両方に言い分があるので、話し合いで解決するには限界があります。そこで、国際裁判所に国際的な意見を求めてはどうかと考えます。

しかし、この解決案はどれも不完全で障害も多くあります。皆が納得しかつ平和的に解決する事が出来る解決案を考えていくことが今後の課題です。

5. 課題とまとめ

紛争問題には住民の感情が絡んでいることが多いので、お互いの意見に耳を傾け、しっかりと話し合うことで解決は見えてくるのではないかと思います。また、一つのことにずっととらわれずに、柔軟な考え方で解決を目指すことが大切だと思います。

他の解決済みの紛争についても更に研究を進め、より建設的な解決策がないか考えていきたいです。また西サハラだけでなく周辺国についても調査し、紛争の原因となりうる要素としてどのようなものがあるのか追究していきたいです。

6. 参考文献

- ・最新地理図表GEO 第一学習社
- ・世界紛争地図 「世界情勢」研究会 著 角川マーケティング
- ・協議による西サハラ問題解決への新たな希望 西サハラをめぐる紛争と新たな文脈
I T E A S 「紛争と危機管理」研究班 著 パレード

(注) 下線部については本校HPの課題研究ページ(2014年度)の『33の紛争や戦争に関するレーダーチャート』を参照。